

公益財団法人書壇院  
令和2年度事業報告書

I	公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業	
1	収蔵品の調査研究と貸出・公開	1頁
2	講演会・ギャラリートーク	2頁
3	展覧会	2頁
II	公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業	
1	書道に関する技能能力の審査・認定	3頁
2	書道教育研究誌の頒布	3頁
3	次代を担う指導者の育成	6頁
III	収益事業	
1	不動産賃貸事業	6頁
IV	その他	
1	懇親会等開催	7頁

## I 公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業

### 1 収蔵品の調査研究と貸出・公開

#### 1-1 企画維持管理

(1) 書壇院で受け入れた新規購入品及び寄贈品の整理・配架

(2) 苞竹記念文庫の書庫・収蔵品の整理・管理

① 閲覧図書管理

② 軸の修理

③ 新収蔵品にバーコードを付け、データ入力

④ 硯の点検・修理は継続中

※新型コロナウイルス感染防止のため④を除きいずれも中止

(3) 書壇院ギャラリー展示の実施

① 第113回展（企画展示）本物を見よう — 『書壇』掲載の本院蔵 明・清の書 その2—

② 第114回展（企画展示）

③ 第115回展（平常展示）「吉田苞竹展」

※新型コロナウイルス感染防止のためいずれも中止

#### 1-2 調査研究

(1) 明治以前の日本の書の拓本の調査を継続

① 釈文の採録

② 粗読み

※新型コロナウイルス感染防止のためいずれも中止

(2) 鐘銘拓本の整理研究

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

#### 1-3 展示事業

(1) 企画展示

① 第113回展（企画展示）本物を見よう — 『書壇』掲載の本院蔵 明・清の書 その2—

② 第114回展（企画展示）

※新型コロナウイルス感染防止のためいずれも中止

(2) 平常展示

① 第115回展（平常展示）「吉田苞竹展」

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

## 2 講演会・ギャラリートーク

### 2-1 講演会

#### 第26回文化講演会

演 題 「水筆を含む指導方法について」(仮題)

講 師 長野竹軒先生

日 時 令和2年6月7日(日)

会 場 東京国立近代美術館講堂

会 費 1,000円

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

### 2-2 ギャラリートーク

※企画展示が中止のため未実施

## 3 展覧会

### (1) 第13回 「書壇院 日本文の書」展

会 期 I 令和2年6月10日(水)～6月21日(日)

II 令和2年6月24日(水)～7月5日(日)

III 令和2年7月8日(水)～7月19日(日)

会 場 書壇院ギャラリー

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

### (2) 第13回 「書壇院展院友 日本文の書」展

会 期 I 令和2年8月26日(水)～9月6日(日)

II 令和2年9月9日(水)～9月22日(火・祝日)

III 令和2年9月24日(木)～10月4日(日)

会 場 書壇院ギャラリー

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

### (3) 第87回書壇院展

会 期 令和2年12月4日(金)～12月11日(金)

会 場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による出品者 370名

審査会員 192名

院友 169名

計 731名

(4) 第87回書壇院学生展

会期 令和2年12月4日(金)～12月11日(金)

会場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による小学生 540名

全国公募による中学生 141名

全国公募による高校生 55名

計 736名

(5) 第60回記念竹心展

会期 令和3年3月23日(火)～3月28日(日)

会場 セントラルミュージアム銀座(紙パルプ会館5F)

出品者

特別展示 書壇院を彩った先師たち 20名(出品数 21点)

書壇院展審査会員 154名( 〃 154点)

書壇院展院友(特別選抜者) 11名( 〃 11点)

計 185名( 〃 186点)

II 公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業

1 書道に関する技能能力の審査・認定

各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を実施した。

(1) 『書壇』漢字・かな・南画昇位試験

締切 令和2年6月8日(月) 受験者7人 各位合格者7人

(2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験

締切 令和2年8月7日(金) 受験者58人 各位合格者45人

(3) 書道・南画教授認定試験

締切 令和2年9月4日(金) 資格保持者4人 受験者2人 認定者6人

(4) 『書壇』日本文部真位試験

締切 令和2年10月7日(水) 受験者78人 各位合格者34人

(5) 『書壇』上位・極位・雅位試験

締切 令和3年3月8日(月) 受験者179人 各位合格者76人

2 書道教育研究誌の頒布

2-1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

(1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し次の諸事項を行った。

- 『書壇』『学生書壇』の誌代を次のようにした。
  - 『書壇』 1部 800円（送料・消費税込）
  - 『学生書壇』 1部 450円（送料・消費税込）
- 『書壇』購読者は、漢字・かな・南画・日本文・篆刻のすべての部門の出品を無料とした。
- 『学生書壇』購読者は、漢字・かな・硬筆すべての部門の出品を無料とした。
- 『書壇』協力員、『学生書壇』協力員の設定
  - 過去1年間（4月号～3月号）に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者（あるいは取扱い責任者）を協力員として姓号（氏名）を誌上に発表し、協力を讃えた。

(2)『書壇』について

- ① 月例掲載記事は令和元年度に準じて行った。
- ② 表紙は書壇院蔵の「南画」とし、裏表紙は、書壇院蔵の作品に解説を添えて載せた。
- ③ 「同人参考手本」
  - 条幅・半紙共、読者の競書出品の参考となるようにした。
  - また、2尺×6尺・3尺×4尺の参考手本は、書壇院展・毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的で掲載した。（漢字・かな・日本文）
- ④ 「漢字規定」
  - 上位・準上位の課題は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規は五言句の参考手本を掲載した。小字の課題は引き続き古典と近藤秋篁書の臨書を取り入れた。
- ⑤ 「かな規定」
  - 極位・準極位は和歌又は俳句を、妙位～6位及び新規は参考手本を掲載した。
- ⑥ 「南画規定」
  - 南画初学講座として参考手本と解説を載せた。
- ⑦ 「漢字臨書規定」
  - 古典研究として読者の作品制作の糧となるような古典を選び、参考手本（条幅・半紙）と解説を載せた。
- ⑧ 「かな臨書規定」
  - 極位～2位は古典の臨書とし、3位～6位はその中の一部分を参考

手本として載せた。

⑨「日本文の書」

参考手本（半紙規定・条幅規定）を掲載し、規定と随意を募集した。

⑩「篆刻入門」

参考手本を掲載し、規定と随意を募集した。

⑪ 随時掲載記事

『書壇』1100号発行にあたって、9月号に吉田苞竹年譜、9月号・10月号に1100号記念として書壇院創始者吉田苞竹作品を掲載した。

「書によせて」、「展覧会案内」、「展覧会報告」、「書壇院日記」その他。

⑫「審査会員遊苑」

審査会員を対象に毎月課題を設定し、作品制作をすることで書の技術の向上に資するようにした（漢字・かな・日本文）。

⑬ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、購読者への情報提供の拡大を図った。

⑭ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を喚起した。

(3) 『学生書壇』について

① 月例掲載記事は令和元年度に準じて行った。

② 表紙は泗水昇鼎図より取りあげた。

③ 表紙裏に「吉田苞竹作品」「古典への招待」を載せた。

④ 「鑑賞作品」は古典の一部を大きく掲載し、やさしい解説を添えた。

⑤ 掲載手本

「毛筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、中1、  
中2、中3、高校（11種）

「かな部」 かな中学、かな高校（2種）

「硬筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、  
中学・高校（8種）

⑥ 「特待生紹介」は従来どおり掲載した。

⑦ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないように注意を喚起した。

2-2 『書壇』『学生書壇』年間発行部数について

両誌に今後も改善を加え、魅力ある教育研究誌となるよう一層努力した。

令和2年度の売上部数は以下のとおりである。

『書壇』年間売上部数 27,618部 対計画比 2,382部減

『学生書壇』年間売上部数 29,105部 対計画比 895部減

### 3 次代を担う指導者の育成事業

#### 3-1 書道教室の継続実施

書道教室（漢字・かな・水墨画（南画））を月2回（原則として第2週・第4週）書壇院ホールにおいて継続実施した。

書道教室（漢字） 水曜日・金曜日

書道教室（かな） 火曜日・土曜日

書道教室（水墨画（南画）） 土曜日

書道教室（子ども） 水曜日・木曜日・金曜日・日曜日

※新型コロナウイルス感染防止のための休止期間あり

#### 3-2 書道講習会の開催

書道講習会（日本文、かな、篆刻、水墨画（南画）各1回）

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

#### 3-3 書初め会の継続実施

※新型コロナウイルス感染防止のため中止

#### 3-4 「若竹」活動の一層の活発化

① 若竹交流会（年間2回開催）

② 第6回若竹作品発表会

※新型コロナウイルス感染防止のためいずれも中止

#### 3-5 他団体の育成事業への指導協力・支援

① 鶴岡市立朝暘第二小学校（吉田苞竹の母校）の書初め会への支援を行った。

② 毎日書道展 中止

③ 高野山競書大会 中止

④ 国際高校生選抜書展への出品に協力した。

## III 収益事業

### 1 不動産賃貸事業

#### 1-1 事務所床賃貸事業

賃貸人公益財団法人書壇院と賃借人森ビル株式会社が契約締結した「建

物賃貸借契約書」に基づき、本院が所有する事務所（港区六本木1-9-10 アークヒルズ仙石山森タワー27階の一部）床面積 843.13 m<sup>2</sup>を賃貸した。

#### 1-2 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業

公益財団法人書壇院「書壇院ギャラリー」「書壇院ホール」借用規程に基づき、賃貸事業を実施した。

実績 書壇院ホールB（午後）1回

### IV その他

#### 1 懇親会等開催

展覧会・講演会実施に付随した懇親会等の開催

- ①「第26回文化講演会」懇親会
- ②「第87回壇院展」親睦会
- ③「第60回記念竹心展」懇親会

※新型コロナウイルス感染防止のためいずれも中止



## 事業報告の附属明細書

- 1 重要な事項はすべて事業報告に記載した。